

乳幼児英会話 はやる親心

民間教室が盛況 ■ 幼稚園で授業

乳幼児に英語を教える教室が盛況だ。英会話教室には0〜6歳児の入会者が多く、英語クラスを設ける私立幼稚園も目立つ。2020年度には小学5、6年で英語が正式教科になり、大



英会話教室で外国人講師から学ぶ子どもたち（16日、東京・錦糸町で）

学入試改革で英語4技能の重要度が増す。我が子が将来困らないように、早い時期から英語に慣れさせたという親心を捉えたようだ。

「I like sushi（私はお寿司が好きです）」

16日夕、東京都墨田区・錦糸町の商業施設内にある英会話教室「BE Studio」で、子供たち3人が英語で元気よく自己紹介を始めた。このクラスでは4〜6歳が週1回1時間ずつ、外国人講師と一緒に歌やゲームをしながら英語を学ぶ。やりとりは全て英語だ。教育事業大手「ベネッセ

英語4技能 読む、聞く、話す、書く。現在の試験形式は筆記形式で、2021年度からはリスニング問題が導入される。試験は、センター試験の1月に行われるが、2021年度からは「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を測る。試験は、センター試験の1月に行われるが、2021年度からはリスニング問題が導入される。試験は、センター試験の1月に行われるが、2021年度からはリスニング問題が導入される。

20年度に小学校教科化

ホールディングス」（岡山市）傘下の会社が全国約1700か所を展開。0歳児から高校生を主な対象としているが、受講者の低年齢化が進み、0〜6歳児は今年、前年比で8%増えた。錦糸町の教室も、受講者約1700人のうち未就学児は3分の2を占める。長女のさくらちゃん（6）

を通わせる東京都江東区の主婦橋本亜紀さん（36）は「小学生の長男が、授業で英語を話すのを恥ずかしかっているようだ。小さい時から学ばせれば抵抗感がなくなると思う」と期待する。

保護者からのニーズの高まりを受け、英語クラスを設ける私立幼稚園もある。大阪府高槻市の「白ばら幼稚園」は17年度に英語クラスを始め、年少（3〜4歳）、年中（4〜5歳）組

の計63人が通う。米国やカナダ出身の教師らが平日朝に1時間の授業を行い、午前中は園内に残って園児と英語で触れ合う。年少で聞き取りに支障はなくなり、年中で会話ができ始め、「発音はネイティブと変わらない」（外国人英語教師）という。

近くに設けた「ホワイトローズ英会話学校」では、入園前の2歳児向けに週2〜3回の英語保育を行っている。卒園者らも通い、森田真弘園長は「子供たちが長期的に英語と関わる環境を提供したい」と語る。

英語教育事業を展開する「グレイプシティ」（仙台市）は、毎日英語に触れるカリキュラムを開発。09年に全国展開を始め、堺市の私立幼稚園など約200施設が利用する。

麻生雄治・宮崎公立大教授（英語教育）は「母語が確立していない幼児期は、外国語の発音をすんなり受け入れる一方、語彙や考える力が限られる。年齢が上がることも、日本語の基礎をつけながら英語の力を伸ばすべきだ」と話している。